



SCB

ニュース&トピックス

No.2024-103

(2024.12.17)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

研究員 西 俊樹

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

データで読み解くこれからの信用金庫経営 (34) 預証率

ー全国信用金庫の預証率は横ばいで推移ー

ポイント

- 2023 年度の全国信用金庫の預証率は、前期比 0.87 ポイント低下の 29.39% となった。
- 業態別では、信用金庫の預証率は、都市銀行、地方銀行、第二地方銀行に比べ最も高い水準で推移している。
- 信用金庫別に期間別(2019～2023 年度)に推移状況をみると、2019 年度は 20.0～30.0% の信用金庫数が最も多かったが、2023 年度では 30.0～40.0% の信用金庫数が増加している。

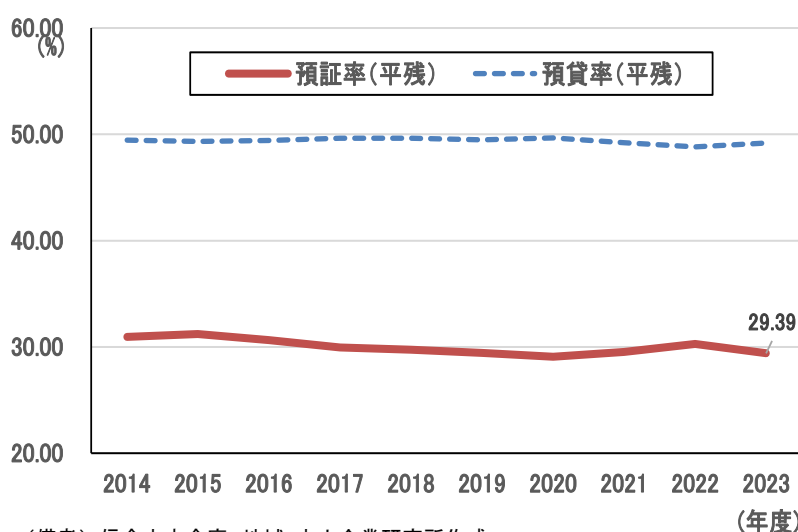
1. 預証率(全国)の状況

本稿では、全国信用金庫の預証率(有価証券(平残)/(預金積金(平残)+譲渡性預金(平残)))を確認する。

2023 年度の全国信用金庫の預証率は、前期比 0.87 ポイント低下の 29.39% となった。

なお、2014～2023 年度までの過去 10 年間における預証率および預貸率の推移をみると、いずれも大きな変動はなく、推移している(図表 1)。

(図表 1) 預証率(全国)の状況



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

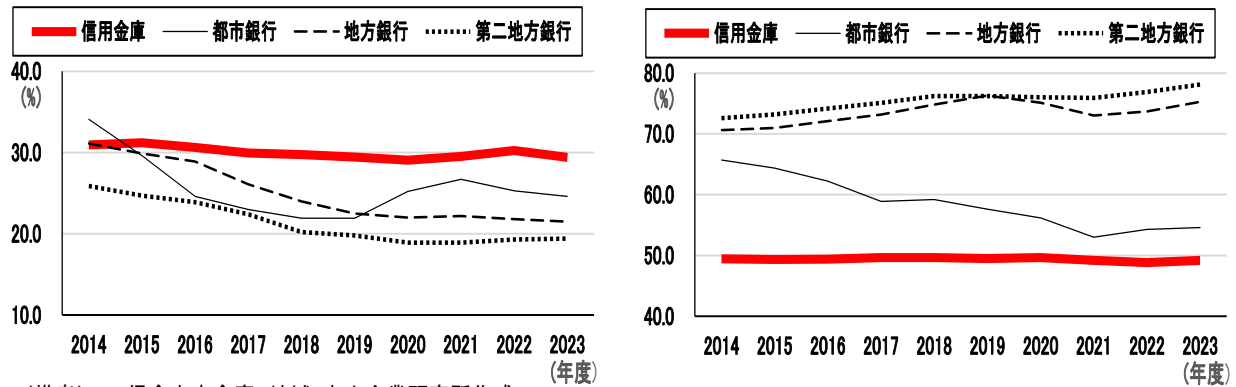
2. 業態別の状況

業態別の 2014～2023 年度までの過去 10 年間における預証率および預貸率の推移を示す(図表 2)。

信用金庫の預証率は、2014 年度時点では都市銀行より低く、地方銀行と同水準にあったが、その後、大きな変動なく推移している。一方、地方銀行、第二地方銀行については、預貸率が上昇していることもあり、預証率は低下傾向にある。

この結果、信用金庫の預証率は、都市銀行、地方銀行、第二地方銀行に比べ最も高い水準で推移している。

(図表2) 業態別の預証率(左図)および預貸率(右図)の状況



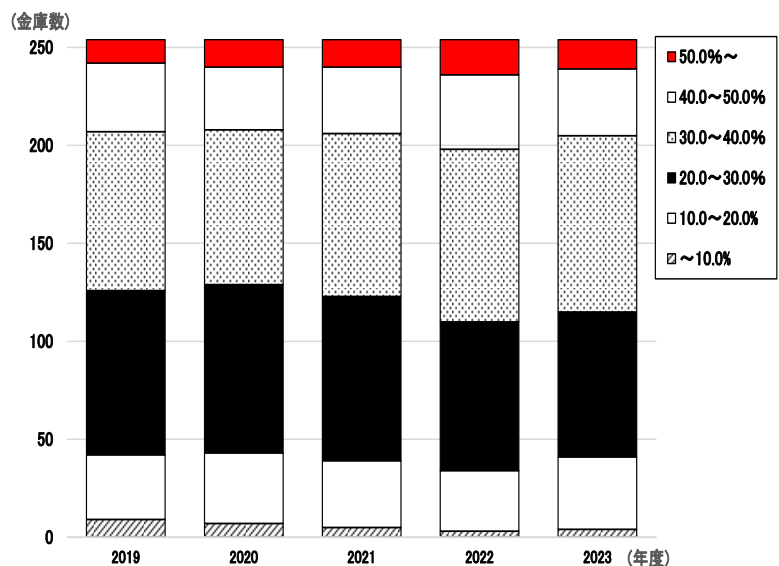
(備考) 1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 他業態は全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」より作成

3. 信用金庫別の状況

信用金庫別に、2019～2023年度までの過去5年間ににおける預証率の推移を示す(図表3)。

全国平均は、2019年度は29.44%であったが、2023年度は29.39%と0.05ポイント低下した。期間別(2019～2023年度)に推移状況をみると、2019年度は図表の凡例6項目のうち20.0～30.0%の信用金庫数が最も多かったが、2023年度では30.0～40.0%の信用金庫数が増加している。一方で、各信用金庫における有価証券の運用スタンスが異なる背景等もあり、10.0%以下の信用金庫や50.0%超となる信用金庫もみられる。

(図表3) 信用金庫別の状況



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

また、2期間比較(2019年度と2023年度)で預証率の動きを確認したところ、上昇142金庫、低下112金庫と、上昇金庫がやや多くなっている。

今般の分析の結果、信用金庫の預証率はこれまで横ばいで推移している。一方、他業態の動きをみると、預貸率の変動に応じて預証率に動きがみられることから、今後、信用金庫業界においても預貸率の動向で預証率が変化するものと思料される。

以上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。